

授業科目 救急蘇生法演習

【担当教員名】 川上 心也	対象学年	4	対象学科	健康
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	○	○
【概要・一般目標：GI0】 一般市民が行うことのできる応急救護の概念を理解し、CPR（心肺蘇生法）とAED（自動体外式除細動器）を組み合わせた応急救護法を実施できる。				
【学習目標・行動目標：SBO】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の救急対応法を理解できる。 2. 応急救護の概念や蘇生の連鎖、感染の予防について理解できる。 3. 気道、呼吸、循環の初期の評価について理解し、実施できる。 4. 気道の確保について理解し、実施できる。 5. 効果的なCPRを実施できる。 6. 病气やけがに応じた対処法を理解し、実施できる。 7. AEDとその使用方法を理解し、CPRと組み合わせて実施できる。 8. 応急救護法が必要な現場に遭遇した場合の対処法を説明できる。 				
回数	授業計画・学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題備考・担当教員
1	オリエンテーション			担当：川上 心也
2	救急蘇生の概要（1）		1	講義、担当：川上 心也
3	救急蘇生の概要（2）		1	講義、担当：川上 心也
4	救急蘇生の概要（3）		1	講義、担当：川上 心也
5	救急蘇生の概要（4）		1	講義、担当：川上 心也
6	救急蘇生法とは		2	演習、担当：川上 心也 他
7	蘇生の連鎖と感染の予防		2	演習、担当：川上 心也 他
8	気道、呼吸、循環の初期の評価		3	演習、担当：川上 心也 他
9	気道の確保		4	演習、担当：川上 心也 他
10	CPR（心肺蘇生法）		5	演習、担当：川上 心也 他
11	病气やけがに応じた対処法		6	演習、担当：川上 心也 他
12	AED（自動体外式除細動器）を用いた応急救護（1）		7	演習、担当：川上 心也 他
13	AED（自動体外式除細動器）を用いた応急救護（2）		7	演習、担当：川上 心也 他
14	知識の確認		8	演習、担当：川上 心也 他
15	まとめ、実技試験 他		8	演習、担当：川上 心也 他
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		【改訂4版】救急蘇生法の指 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会(監修) へるす出版 2011・1,300円＋税 針2010 市民用・解説編		
参考書				
その他の資料				
【評価方法】 出席約40%、実技試験約30%、筆記試験約30%で総合的に評価する。 なお、客観性の確保が困難な実習態度は評価の対象としないが、明らかに他人の迷惑となっている場合には退室を求めることがある。		【履修上の留意点】 演習は3～4名程度の班単位で実施します。班員はオリエンテーションで連絡します。		